

結婚式の披露宴、宴会の締めくくりに、新郎新婦が親御さんに、感謝の気持ちを綴った手紙の朗読とともに、花束を贈呈し、涙涙のクライマックスを迎えるシーン……。今も昔も変わらず感動の場面ですね！

しかし、この定番の花束、最近の流行というと、新郎新婦が生まれた時の体重と同じ重さのぬいぐるみを贈るそうなのです。いつの間にそんな流行が？とびつくりしたのですが、考えてみると感慨深いものです。

新郎新婦は、自分が生まれた時の体重を知っていたとしても、実際に体重と同じ重さのぬいぐるみを抱いた時、「自分はこんなに小さくて、こんな重さで生まれてきたのか、今こうして成長して結婚式という日を迎えさせて頂くまで、親はどれだけの苦勞をして育てて下さったのか」と親へのご恩を思う事でしょう。

親の方は、ぬいぐるみを渡され抱いた時、「ああ、我が子はこんなに小さくて、こんな重さで生まれてきたのか」初めて我が子を抱いた日の事を思い出し、「よくぞ無事に生まれてきてくれた。当時、体重は軽かったけれども、いのちの重みは大変重かった。」と尊いいのちを頂いた事を思い起こし、すくすくと成長し、親から独立し、結婚式を迎える事ができ、こうしてお礼の言葉と贈り物を頂けるなんて……」と感動される事でしょう。子を持つ親としては、想像しただけで胸が熱くなります。

「あなたが生まれた時、嬉しくて、生まれてきてくれてありがとうと、みんなで大事に抱っこしたのよ。両親、祖父母、曾祖父母やもつともつとたくさんのご先祖の方々のいのちのリレーによって、私が生まれさせて頂き、あなたが生まれてきてくれたので私は親と呼ばれるようになりました。

あなたの成長を喜びながら過ごした日々は宝物です。どうぞ、幸せになって下さいね」とお祝いの言葉をかけたいものです。

そして、私たちがいつも見守って下さり、「あなたが大切なのですよ、あなたを救わずにはおれない」と強く願われる、阿弥陀さま。私たちは、その願いの中で生かされている仏の子どもです。

結婚式という日を迎える事ができた事を、親御さん、阿弥陀さまに感謝させて頂きましょう。

軽いけど重い「いのちの重さ」を思いながら、子から親へと贈られるぬいぐるみ。素晴らしいですね！

